

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 6 卷第 38 号

第 38 週 (9月 18日 ~ 9月 24 日)

発行年月日:平成18年(2006年) 9月 29日

発行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

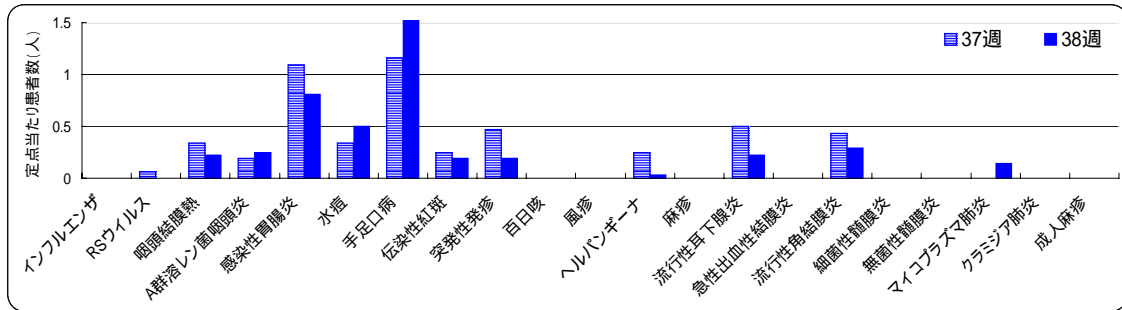
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

今週の感染症発生動向

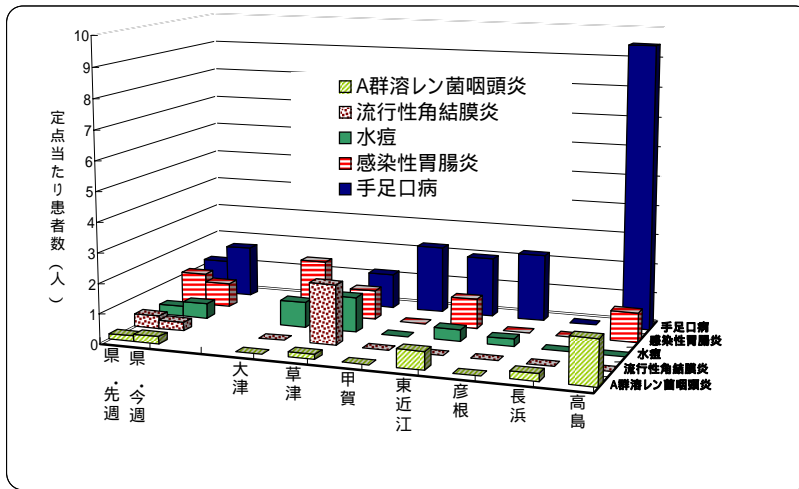
定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、先週(9月11日~9月17日)の報告数よりさらに減少しています。増加した疾患はA群溶レン菌咽頭炎、水痘、手足口病およびマイコプラズマ肺炎です。また、減少した疾患は咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、伝染性紅斑、流行性耳下腺炎等です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

今週は全数把握対象疾患の届出はありませんでした。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象五類感染症、第38週、定点当たり患者数)



県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおりで、手足口病、感染性胃腸炎、水痘、流行性角結膜炎、A群溶レン菌咽頭炎の順に多くなっています。

手足口病は高島で急増し、先週にひき続き多い状態となっています。感染性胃腸炎は大津で、水痘は草津でやや多くなっています。

海外の感染症情報 - 海外渡航者のための感染症情報(厚生労働省検疫所)より抜粋 -

中国・広東省でのデング熱発生について(在広州日本国総領事館 2006年9月14日)

9月6日現在、広東省内でのデング熱の感染症例は276例が確認されており、そのうち245例が広州市で発生しています。広東省では8月~10月までがデング熱の流行期に当たります(場合によっては11月までです)。また、デング熱の予防は蚊に刺されないようにすることが唯一の予防対策となります。

カンボジアでのデング熱発生について(カンボジア日本国大使館 2006年9月18日)

デング熱が1998年以来大流行しています。カンボジア政府によると、8月までのデング熱患者総数10176名で去年の同時期の約50%増となっており、うち102名が死亡しています。

ウエストナイル熱情報2006 - 更新11(米国CDC 2006年9月26日 ヘルスカナダ 2006年9月25日)

現在、米国、カナダにてウエストナイルウイルスが発見されています。これらの地域へ渡航する方は、虫除け剤、長袖、長ズボン等で蚊に刺されないように注意することが大事です。

鳥インフルエンザ流行状況 - 更新110(WHO(EPR) 2006年9月27日)

インドネシアでは、現在までに68名の患者が確定し、うち51名が死亡しています。タイでは、現在までに25名の患者が確定し、うち17名が死亡しています。

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (38週)	累積報告数		平成17年報告数	
			滋賀 (38週)	全国 (38週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	コレラ	0	1	40	0	54
	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 5	344	^{(*)3} 7	556
三類感染症	腸チフス	0	0	54	0	50
	腸管出血性大腸菌感染症	0	39	3,002	12	3,567
四類感染症	E型肝炎	0	1	53	0	40
	A型肝炎	0	20	275	1	168
	オウム病	0	0	16	1	34
	デング熱	0	0	38	1	73
	マラリア	0	0	47	0	66
	レジオネラ症	0	10	364	3	276
五類感染症	アメーバ赤痢	0	7	551	5	680
	ウイルス性肝炎	0	0	188	2	277
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	123	2	147
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	4	88	0	60
	後天性免疫不全症候群	0	7	937	7	1,161
	ジアルジア症	0	1	64	0	81
	梅毒	0	3	448	0	555
	破傷風	0	0	84	0	114
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	52	2	65
	急性脳炎	0	1	125	2	180

*1:平成17年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2:検査法第26条の3に基づく検査所長から滋賀県知事への通知分2件を含みます。

*3:検査法第26条の3に基づく検査所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

全国における全数報告感染症の発生状況 - 第38週(9/18～9/24) -

一類感染症:報告なし	四類感染症:レジオネラ症 12例	五類感染症:ウイルス性肝炎 2例
二類感染症:細菌性赤痢 14例	レプトスピラ症 1例	後天性免疫不全症候群 11例
三類感染症:腸管出血性大腸菌感染症 96例	五類感染症:アメーバ赤痢 9例	クロイツフェルト・ヤコブ病 2例
四類感染症:A型肝炎 2例	梅毒 6例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1例
日本紅斑熱 2例	破傷風 1例	

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点*から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。*疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(第33～38週、8/14～9/24)

疾患名	定点当たり患者数(前週より増加 前週と同じ 前週より減少)						
	33週 (8/14～)	34週 (8/21～)	35週 (8/28～)	36週 (9/4～)	37週 (9/11～)	38週 (9/18～)	週 34 35 36 37 38
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0.06	0	
咽頭結膜熱	0.38	0.56	0.66	0.75	0.34	0.22	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.16	0.28	0.19	0.31	0.19	0.25	
感染性胃腸炎	0.78	1.22	0.88	0.88	1.09	0.81	
水痘	1.06	0.63	0.38	0.41	0.34	0.50	
手足口病	1.88	1.72	1.19	1.13	1.16	1.72	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.34	0.59	0.56	0.44	0.25	0.19	
突発性発しん	0.38	0.78	0.56	0.41	0.47	0.19	
百日咳	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0.28	0.47	0.31	0.34	0.25	0.03	
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.53	0.47	0.66	0.41	0.50	0.22	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	3.57	0.86	1.00	0.86	0.43	0.29	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0.14	0.29	0.29	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0.29	0.86	0	0.14	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	

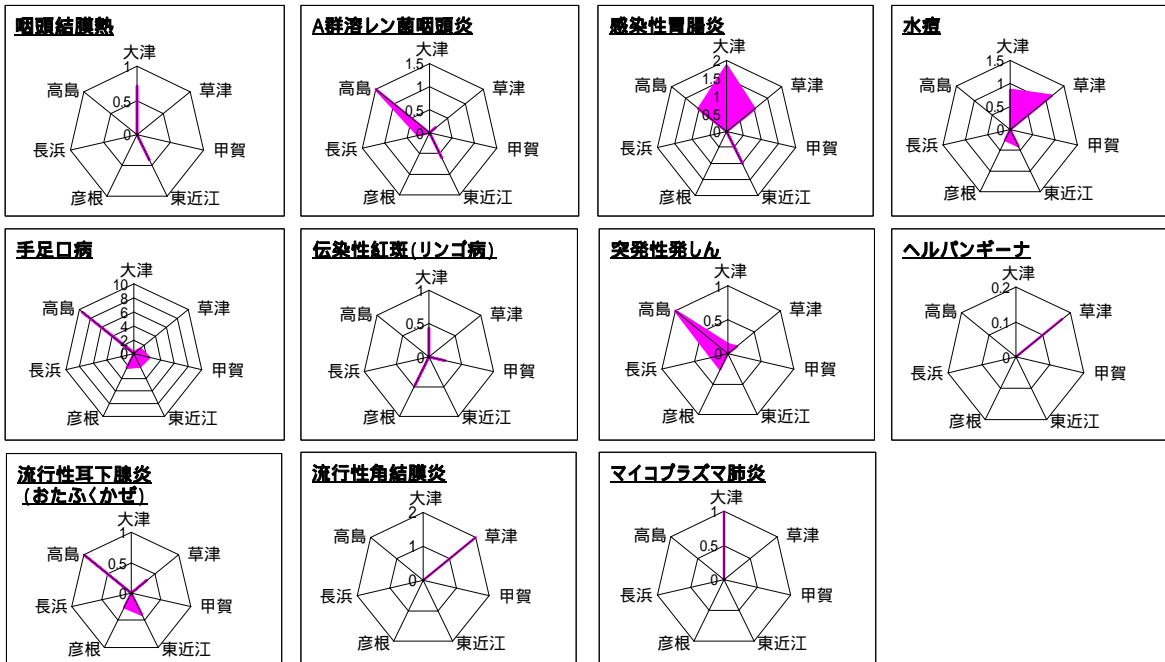
(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第38週、9/18～9/24)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県全体)		
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島			
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0			
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0			
咽頭結膜熱	0.22	0.71	0	0	0.40	0	0	0	■		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.25	0	0.17	0	0.60	0	0.25	1.50	■		
感染性胃腸炎	0.81	1.86	1.00	0	1.00	0	0	1.00	■		
水痘	0.50	0.86	1.17	0	0.40	0.25	0	0	■		
手足口病	1.72	0.14	1.17	2.25	2.00	2.25	0	9.50	■		
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.19	0.43	0	0.25	0	0.50	0	0	■		
突発性発しん	0.19	0.14	0.17	0	0	0.25	0.25	1.00	■		
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0			
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0			
ヘルパンギーナ	0.03	0	0.17	0	0	0	0	0	■		
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0			
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.22	0	0.33	0	0.40	0.25	0	1.00	■		
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0			
流行性角結膜炎	0.29	0	2.00	0	0	0	0	0	■		
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0			
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0			
マイコプラズマ肺炎	0.14	1.00	0	0	0	0	0	0	■		
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0			
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0			

■ は定点当たり患者数が先週より増加、■ は定点当たり患者数が非常に多い状態

0 0.5 1 1.5 2
定点当たり患者数(人)

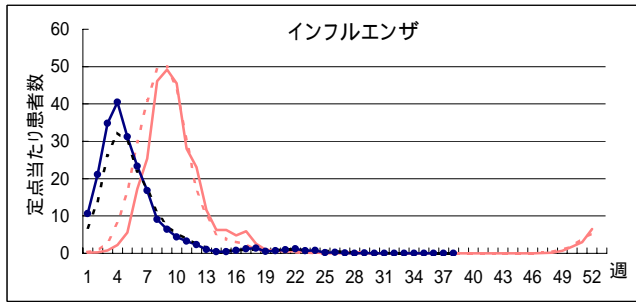
疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



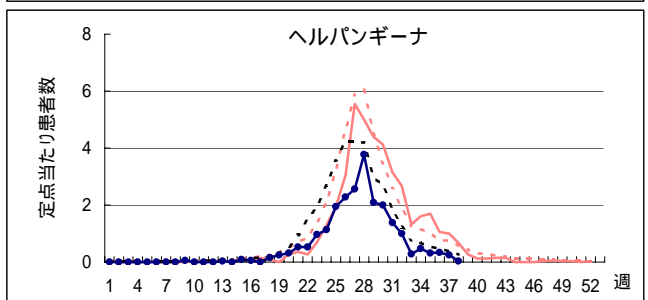
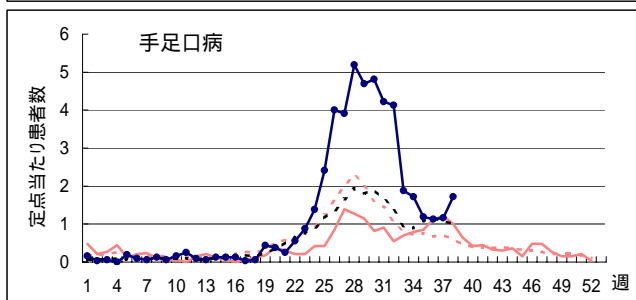
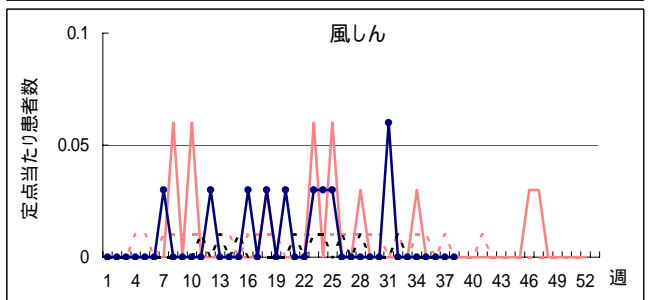
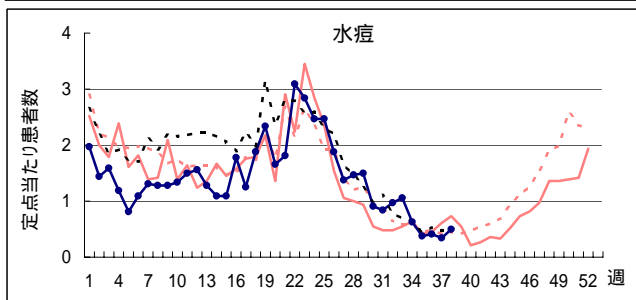
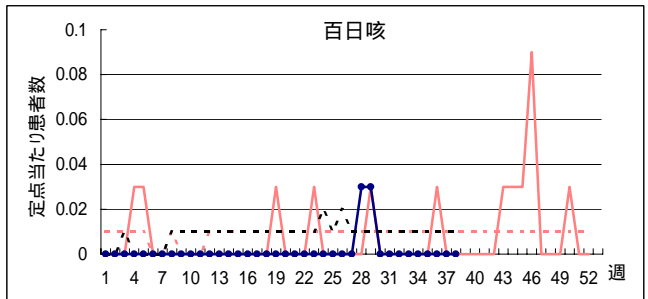
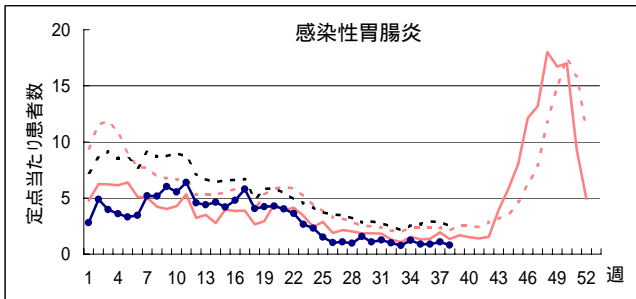
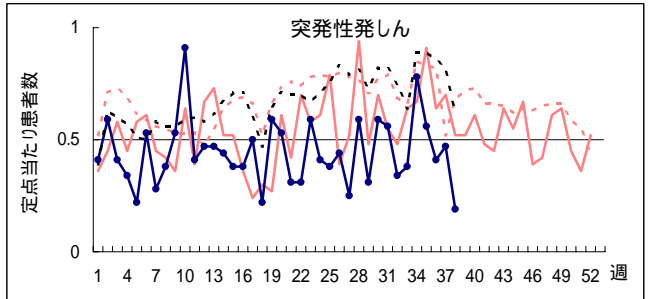
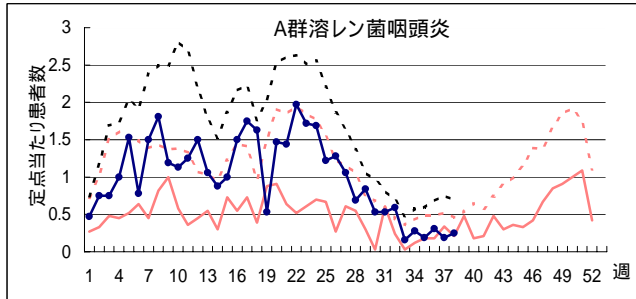
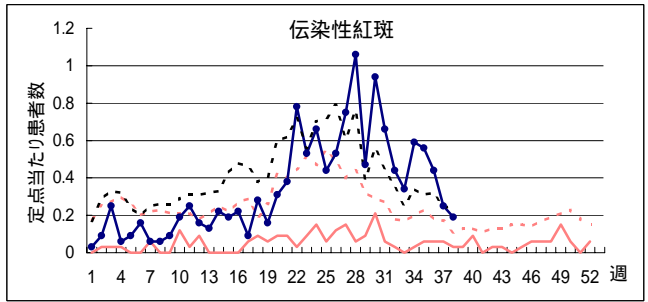
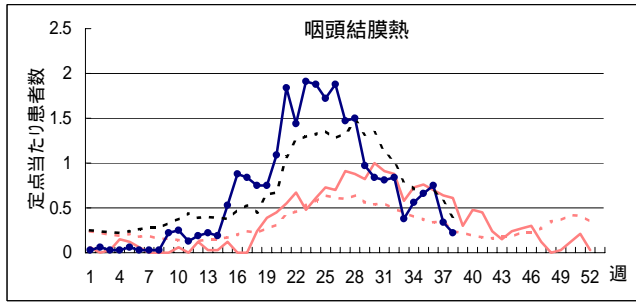
今週の発生状況：保健所管内別定点当たり患者数

- 咽頭結膜熱-----大津および東近江から報告されていますが、県全体では先週に引き続き減少しています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎----高島からの報告が先週よりやや多くなり、県全体では微増となっています。
- 感染性胃腸炎-----大津では先週より半減し、草津、東近江および高島では先週より増加しています。
- 水痘-----県全体では先週より増加し、大津および草津からの報告がやや多くなっています。
- 手足口病-----草津、彦根および高島で先週より増加し、特に高島では定点当たり患者数が9.50と非常に多くなっています。
- 伝染性紅斑-----県全体では4週連続して減少していますが、甲賀および彦根からの報告は先週よりやや多くなっています。
- 突発性発しん-----草津および高島以外では先週より減少しています。
- ヘルパンギーナ-----草津から報告されているのみで、県全体では減少傾向となっています。
- 流行性耳下腺炎-----ほとんどの保健所で先週より少なくなっています。
- 流行性角結膜炎-----草津から報告されています。
- マイコプラズマ肺炎-----大津から報告されています。

疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第38週、H18.1.2～H18.9.24)



H17 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H18 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第38週、H18.1.2～H18.9.24)

H17 { 滋賀 ————
全国 - - - - -

H18 { 滋賀 ●—●—●—
全国 - - - - -

